

■中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会基本問題小委員会におけるヒアリング資料■

全日本中学校長会

※『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の構築～（中間まとめ）（案）に対する意見等

1. 「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師像と教師に求められる資質能力

(2) 指針の改正及び教員育成指標の見直し、「教師に共通的に求められる資質能力」を踏まえた教職課程の在り方

■「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」が改正され、「教師に共通的に求められる資質能力」は、①教師に必要な素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、⑤ICTや情報・教育データの利活用と整理された。今後、教職に就く人が身に付けてはならないことは多岐にわたるが、教師として最も大切なものは「教職に必要な素養（豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情、人権意識、倫理観、社会性等）」であると考えます。

●教職に就いてからも資質向上を図ることとなるが、学校体験活動など、教職に就くまでの期間においても学校現場との積極的な連携等を通じた醸成が重要であると考えます。（p.28）

■「教師に共通的に求められる資質能力」の「⑤ICTや情報・教育データの利活用」については、令和4年度から教職課程での科目の必修化が行われたが、令和答申にある「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」を実現するには、ICTは不可欠である。

●学校現場における即戦力になること、情報担当者と共に核となってICTを活用した教育方法を広めることなどを期待したい。そのためには、大学や大学院在学中の学びの環境が重要である。教職課程を設置する各大学における「自己点検評価」による確認は必須であるが、確認後、資質能力を身に付けることが十分にできていない際の改善についてまで言及する必要がある。（p.28）

(3) 理論と実践の往還を重視した教職課程への転換

①. 「教育実習」等の在り方の見直し

■全ての学生が一律に教職課程の終盤に教育実習を履修する形式を改め、それぞれの学生の状況に応じた柔軟な履修形式が認められることには賛成である。

●学校現場の負担が増加することも想定される。しかしながら、「一般大学・学部における大学4年前期の実施という現在のスケジュールが民間企業の就職活動の早期化に対応していないこと」、中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会（第8回）で示された「教職課程を置く大学等に所属する学生の教職への志望動向に関する調査（浜銀総合研究所）」において、「大学卒業後に学校教員以外を志望している者のうち約5割の者が、教職志望度が向上したと回答していること」から、教職への意欲のある学生等の確保を優先すべきである。そのためには、2～4週間のまとまった期間での教育実習の早期実施、毎週〇曜日を一定期間というフレキシブルな形式などにも学校が対応することで教職を目指す人材を増やすことができると考える。（p.29）

●養成段階における「学校体験活動」を一層重要視し、現在、一部において代替可能となっている「学校体験活動」の積極的な単位認定を進めていただきたい。現在、部活動指導員、部活動外部指導者、スクール・サポート・スタッフ、ICT支援員など、多様な人が教育に関わっている状況にあり、そのような環境で体験活動を通じて学ぶことも大きい。また、学校体験活動日を明確に位置付けることで、学校の人手不足と学生の実習が同時に実現できるのではないかと。（p.30）

## 2. 多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成

### (1) 教職課程における多様な専門性を有する教師の養成

#### ①. 特定分野に強みや専門性を持った教師の養成・採用・研修

■教師としての「強みや専門性」を学生のうちに身に付けるために、教職課程に位置付けられた科目以外の科目の履修等を行うことで教職課程の履修を断念せざるを得ない状況が生じるのは、「多様な専門性を有する教職員集団の構築」という観点から大きなマイナスである。そのため、最短2年間で取得できる二種免許状を念頭においた教職課程の特例的な開設には賛成である。

●「教員免許状（一種）を最短2年間で取得できる教職課程を特例的に設ける」と誤解が生じることが心配である。中間まとめ（案）では「四年制大学」とあり、「強みや専門性を身につける活動との両立」が前提にあることが確実に伝わるようにしてほしい。（p.32）

#### ※中間まとめ（案）に記載の無い内容についての意見

◇教科によっては免許が取得できる大学が少ない状況もある。そのため、在籍する大学には設定されていない科目を他大学で履修し、免許取得に必要な単位とすることができるといふ、大学間の連携による単位交換制度は導入できないか。

◇学校現場では、臨時的任用教員等を確保することができず、充足していない教科の履修遅れや履修漏れが生じている。このことへの対応として、例えば、総合大学の経済学部であれば中学校教諭免許「社会」を取得するのが一般的であるが、経済学部に籍を置きながら、「国語」や「数学」等の他教科の免許取得のために必要な科目も本人の意思で取得できるといふ、教員免許状の取得教科の拡大を図ることはできないか。これにより、大学入学後にも進路選択の幅が広がり、教員不足の解消の一助にもなるのではないか。

### (2) 優れた人材を確保できるような教員採用等の在り方

#### ①. 教員採用選考試験の実施スケジュールの在り方

■民間企業の就職活動が早期化している状況を踏まえ、教員採用選考試験のスケジュールの早期化や複線化について検討することには賛成である。

●民間企業の内々解禁日である6月1日よりも相当早く就職活動を終了している学生が、教員免許を取得するためだけに教育実習を行うこともある。教職を目指しているかどうかで、教育実習生を受け入れる学校や指導教員もモチベーションは異なる。また、少しでも早く安定した就職先を決めたいという学生も多くいると考えられることから、現在の実施時期では民間企業と競争できない状況にある。各自治体だけでは解決困難な問題であり、国と任命権者の協議による課題解決に期待したい。（p.33）

#### ②. 多面的な採用選考

■民間企業等の勤務経験者に対する面接を中心とした特別な選考の拡充は、現在教職に就いていない人の教職への入職を促進する方策としてはよいと考える。

●強みや専門性を有した教師の採用、民間企業等の勤務経験者に対する面接を中心とした特別な選考の拡充については、子供との対応が苦手であれば「強みや専門性」「民間企業での経験」を活かすことは困難である。そのため、初めから正規採用でなく任期付き職員とし、適性が認められた場合に正式採用とする形が望ましい。（p.34）

●教員免許を保有しているが現在教職に就いていない人が「現在の職（生活）」から「教職」へと大きく舵を切るには、円滑に入職できるための支援はもちろんのこと、学校現場の大幅な環境改善や処遇面でのメリットが無ければ決断は困難であると考えられる。そのため、教職への入職を促進するに当たっては、学校現場の大幅な環境改善（働き方改革の推進）等が必須であることについて言及する必要がある。（p.34）

### (3) 多様な専門性や背景を持つ人材を教師として取り入れるための方策

#### ①.特別免許状に関する運用の見直し

■優れた知識や経験等を有する社会人を教職に迎え入れる制度として、特別免許状があることはよいと考える。また、教員不足という状況にもあるために有効な活用が必要と考えるが、採用に当たっては慎重であるべきである。

●教員不足にある中で有効な方法ではあるが、「教師に共通的に求められる資質能力」にある「教師に必要な素養」を持っているかどうかは、過去の実績だけでは判断できない。また、発達段階によっても求められる教師としての資質能力に重要度に差があると考えられる。そのため、授与件数が他の免許と比較して低水準であること、特定の学校種や教科に偏っている状況などから、一概に課題とするのは如何かと考える。(p.35)

### (4) 校長等の管理職の育成及び求められる資質・能力の明確化

■「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」が改正され、「校長に求められる基本的な役割」を果たす上で求められる資質能力として、「アセスメント能力」と「ファシリテーション能力」が加わった。また、これからの時代に必要な教師の学びを実現する「新たな研修システム」では、教師と対話をしながら、計画的・効果的な研修の受講を奨励し、「令和の日本型学校教育」の推進に向けた原動力となる教師を育成することも管理職としての大きな役割となる。このような中、教育管理職志望者が減少している状況は、来年度から始まる地方公務員の定年年齢の順次引き上げにより、一層進むことが危惧される。

●学校管理職に対する研修だけでなく、役職定年制の導入への対応も重要と考える。教員志望者の減少と同時に管理職志望者の減少も危惧される中、弁護士、医師、大学教授と同様、資格（免許）を有する職業であることから、管理職を含む教員のキャリアステージについても記載されるとよいと考える。(p.37)

#### ※中間まとめ（案）に記載の無い内容についての意見

◇新規に採用された教員について、1年間は定数外として授業時数も極端に少なくし、実地研修期間扱いとすることで、ミスマッチや精神的な理由での休職者も減少させることができるのではないか。また、休職等により欠員状態となった学校への一時的な配置も可能とすれば、授業等ができない状況も生じない。

◇講師を一定期間継続することで正規採用になるという道を保障することで、不安定な立場での雇用状態を回避することができる。実際、先に内定となった職場への就職を決めることは多く、特に雇用的にも経済的にも不安定な講師を長期間にわたって継続することへの不安は大きいので、このような方策を盛り込むことも教員不足の対策となる。

## 3. 教員免許の在り方

### (2) 義務教育9年間を見通した教員免許の在り方

■小中一貫教育校や義務教育学校が増加するなど、義務教育9年間を見通した教育の重要性は増していると考えられる。そのような中、小学校教諭と中学校教諭の両方の免許状を保有することは有益であるが、これにより学生が2つの教職課程に取り組むことは現実的でない。

●今回の中間まとめ（案）で示された「四年制大学においても、最短2年間で免許状取得に必要な基礎資格・単位を得られる二種免許状の取得を念頭に置いた教職課程の創設」などの方策を推進し、より一層円滑に他の学校種の免許状を取得しやすくすることを望む。(p.40)

## 4. 教員養成大学・学部、教職大学院の在り方

### (5) 教員就職率の向上

■「教職課程を置く大学等に所属する学生の教職への志望動向に関する調査（浜銀総合研究所）」において、教員免許の取得が卒業要件になっているかどうかにかかわらず、「卒業後に教員になる者の多くが、大学入学前に教職課程を履修することを決めている。」「中学校・高等学校等の免許状取得予定者の多くが、教職を目指した時期は中学校・高等学校の頃と回答している。」が明らかになっている。

●教員志望の高い学生の入学という観点では、教員養成大学の努力や工夫も大切であるが、そこに至るまでの中学校や高等学校段階での経験や教師との出会いが大きい。学生が児童・生徒の頃に、どのような教師に出会ったのか、どのような学校生活であったのかが教職への魅力の大きさに繋がっており、教員志望者を増やせるかどうかは、今の教師の取組と姿に掛かっていることが前提であることをメッセージとして出すことが大切である。(p.45)

## 5. 教師を支える環境整備

### (2) 多様な働き方など教師を支える環境整備

#### ②. 学校における働き方改革の一層の推進

■令和4年度採用の公立学校教員の採用倍率は、受験者の減少に歯止めがかからず、小学校は2.5倍と3年連続で過去最低を更新するとともに、高校は5.4倍で過去2番目、中学校は4.7倍で過去3番目に低かった。3月から4月に掛けて日本若者協議会が教員志望の高校生・大学生・大学院生211人を対象に行った調査では、「教員志望の学生が減っている理由」として、94%の人が「長時間労働と過酷な労働環境」を、77%が「部活動顧問など本業以外の業務が多い」を選択している。就職先を選ぶ際の重要な要素は「ワーク・ライフ・バランス」である。

●「学校における働き方改革の一層の推進」があつて初めて「質の高い教職員集団の構築」に繋がるのではないか。その割には、中間まとめ(案)に記載されている内容が少なく、弱い。何より「教師という仕事は素晴らしい仕事である」ということを伝えるとともに、国として「働き方改革」を強力に進めるメッセージが様々な場面で伝わるのが「ブラック」という言葉を払拭し、多くの学生等が教職を目指すことに繋がるのではないか。

●「教師不足」が社会問題となり、教職の魅力向上が求められているが、小・中学生が教職を志すのは、自分に寄り添ってくれたり、温かく見守ってくれたりした教師に出会い、「自分もこうなりたい」と強く心打たれた経験からである。しかしながら、現状は、子供たちに寄り添ったり、話を聞いたりする時間さえなく業務に追われている。忙しくて疲弊している教師の姿を目の前にしては、「教師になりたい」という思いをもつことはない。授業だけが教師の仕事ではないし、勤務時間内での業務遂行を目指すのであれば、学習指導要領に定められた各教科の指導内容の精選、教職員定数の見直し、授業の持ち時数の軽減を実施するべきである。

#### ※中間まとめ(案)に記載の無い内容についての意見

◇過当たりの授業時数が少ない教科の教員配置を考える必要がある。少子化が進む中、学級数の少ない小規模校では1教科1名の教員配置が難しい。また、小規模校が増加しても統廃合が進まない地域もある。そのため、美術、音楽、技術・家庭については、免許外や臨時免許、非常勤講師での対応が常態化していることから、既に兼務発令による複数校への配置を行っている自治体の取組等を参考にして推進する必要がある。